

**令和4年度
地域において所有者不明土地対策に
取り組む法人の普及に向けた
モデル調査**

地域のあらゆる空き土地対策を行うことで創出する
サステイナブルで魅力的な大島地区

実施結果報告書

令和5年3月

大島小学校区まちづくり協議会

(1) 取組の背景と目的

① 取組の背景・経緯

・当地区は、兵庫県猪名川町の最北部に位置し、全域が市街化調整区域で集落部以外のほとんどのエリアが県立自然公園区域である。都市部には近いがゆえに近年人口の流出が著しくなっている。

・現在当協議会では地域ぐるみで一昨年、昨年と活性化の計画を策定して活動しているところであり、空き家と休耕田の活用を重点項目の一つとして取り組んできている。



・空き土地、低未利用土地、や所有者不明土地に関する課題としては、以下の3点があげられる。

◇地域内に大きな不法投棄土地と産廃土地が数か所存在し、地域の環境悪化をきたし地域住民の不安を招いているとともに、地域の悪印象を招いていることで現在当協議会で進めている地域活性化や移住対策等にも影響が出ている。

◇地域の中心部には大島小学校があるが、近接して大島出合い公園という比較的大きな公園が存在するが、好立地にも関わらずほとんど利用者がいない状況である。清流猪名川にも接しており、有効な活用方法の検討が課題となっている。また11ある集落内には、未利用な空き地が散在しており、地域としての有効な利用検討が必要となっている。

◇特に北部エリアの棚田で、圃場整備した法面が4, 5mの高さ及びぶ箇所もあることや、草刈り等の管理作業で死亡事故も発生しており、休耕田増加の一因ともなっている。

・これらに対する地域でのこれまでの取り組みとしては、以下の通りである。

◇参考資料に示す産廃土地に関しては、周辺に影響を与えるほどの量を廃棄しており、地域で要望してはいるが県の指導時には少し改善される程度で推移してきている。また、まちなかにある大きな不法投棄は約20年間放置されており、当時は対策がされていたものの断念し現在に至っている。

◇大島出合い公園に関しては、これまでに大島トレイルランなどのイベントで活用されては来ているが、特ににぎわい創出などの計画的な取り組みは行われていない。

◇大きな法面の農地の管理については、現在のところ対策が立てられていない。

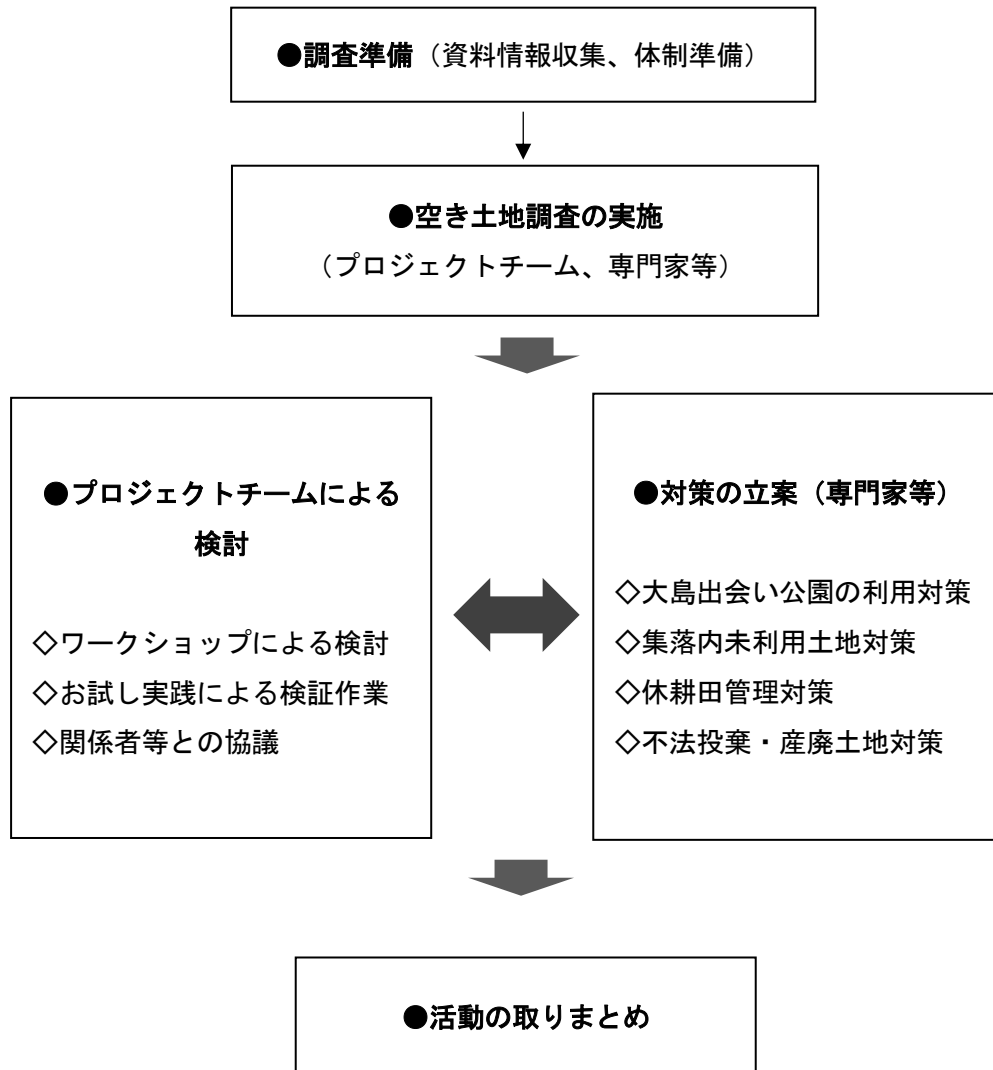
② 取組の目的

・今回の事業では上記課題やこれまでの取り組みを踏まえ、以下の目的をもって進めていくこととする。

・低利用な地域中心部の公園に関しては、地域活性に資する定期的なバザールを開催するとともに、猪名川に接していることからコロナ下で発展しているアウトドア型の楽しみができる親水公園の計画を作る。地域の11集落内には未利用な空き地が多く存在し、集落ごとに検討委員会を設けて公園や日曜市等の利用方法を検討する。休耕田対策としては、危険な管理作業の有効な方法を見出し、地域内での仕事を創出して持続可能な農業経営を行っていく。不法投棄土地や産廃土地問題に関しては、この解消を目指して地域ぐるみの運動を起こして行政や関係者に働きかける。

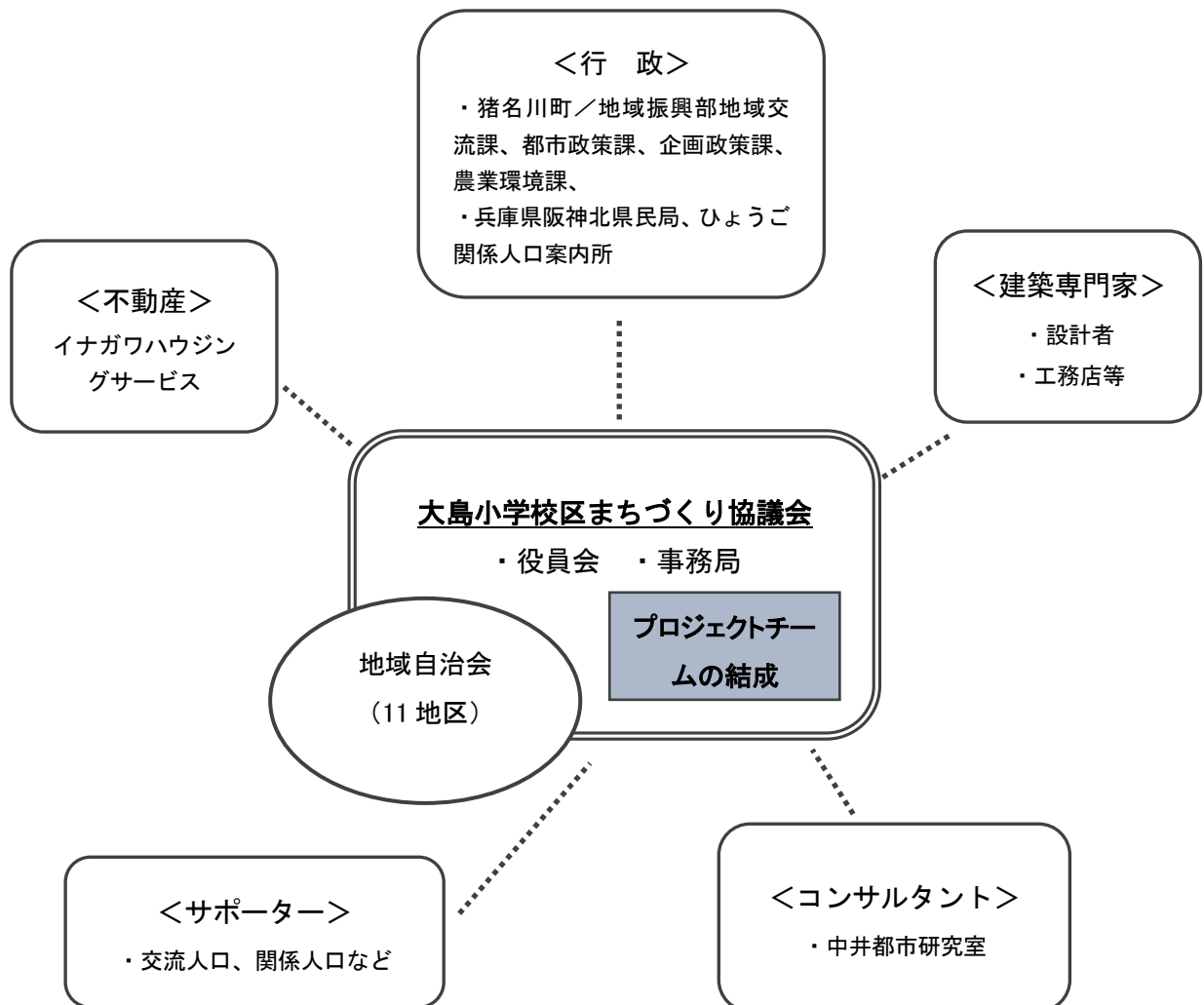
・これらを広く空き土地対策（所有者不明土地発生の予防策を含む）として総合的に取り組み、地域が主体となり行政や土地等の専門家の支援も得ながらプロジェクトチーム結成して取り組んでいくことで、より住みよい地域づくりを行い移住等に結び付けていく。

(2) 取組の流れ（フローとスケジュール）



図表 1 取組の流れ（イメージ）

(3) 取組の体制



図表 2 取組の体制

(4) 取組の対象とする地域（土地）の概要

今回の取組の対象とする土地の状況は以下のとおりである。



大島出合い公園

……高いフェンスで囲まれており閉鎖的な印象がある。利用度や利用方法も課題である。



大島出合い公園



産業廃棄物不法投棄土地

……住宅地に近接して立地していて、その解消が課題となっている。



大型ごみ放置土地

……住宅地内にあり、長らく放置状況が続いている。

図表 3 地域（土地）の現況写真



集落内の空き土地

……集落内のほぼ中心に位置し、所有者によりよく管理されている。利用価値のある土地となっている。



集落内の空き土地

……隣接する空き家とともに利用が想定される。



大きな法面の棚田

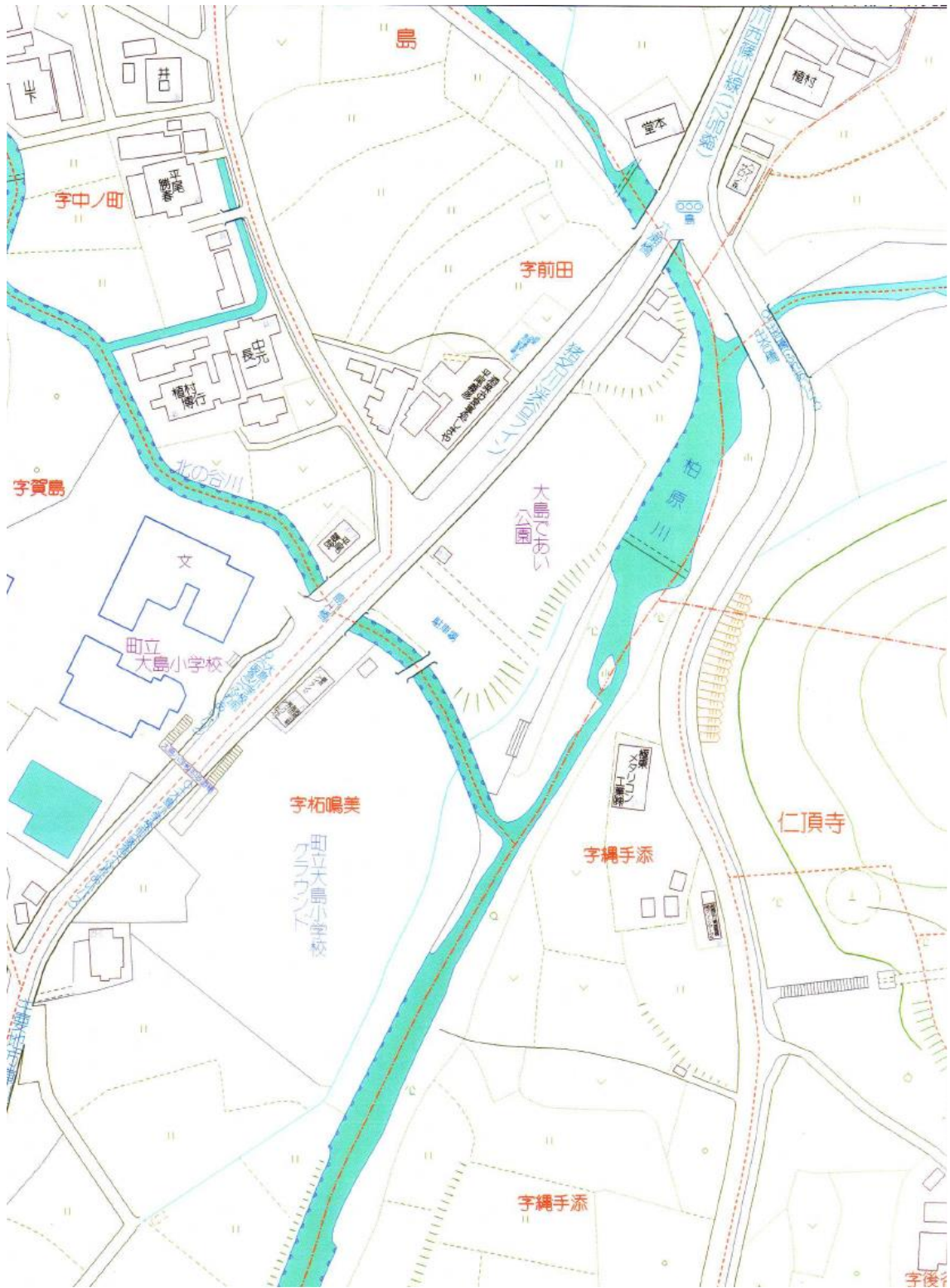
……棚田のほ場整備により、大きな法面が多くの個所で生まれることになった。このことにより草刈り等の作業の危険性が高まることになった。作業中の死亡事故も最近起っている。



管理が難しい伝統的な石垣棚田

……ほ場整備が行われていない棚田も多数存在しており、ここでも管理上の課題が生じている。一方、小規模のため移住者などが気軽に使用できるといった可能性もある。

図表 4 地域(土地)の現況写真



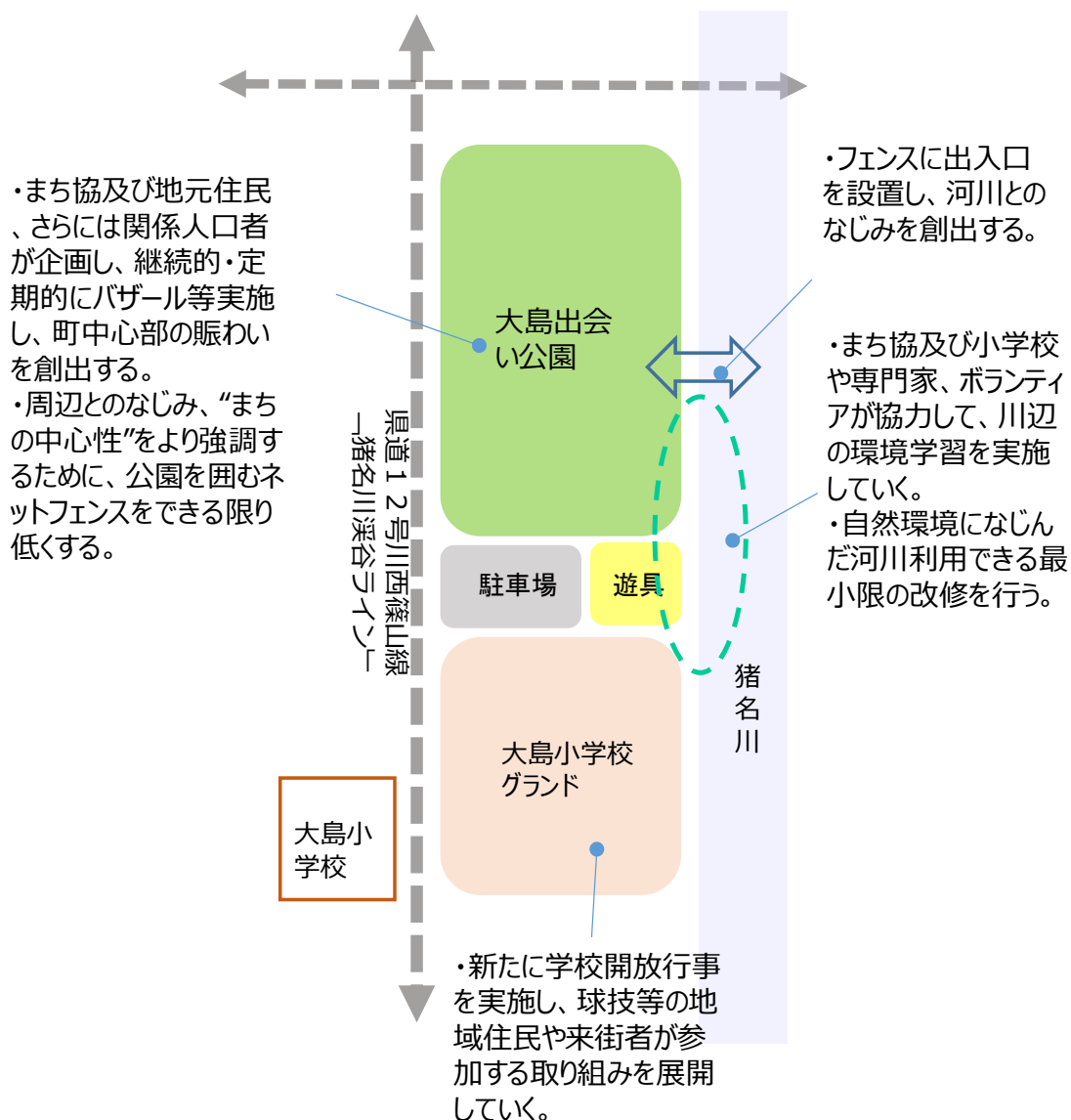
図表 5 地域（土地）の位置図（大島出合い公園）

(5) 取組（活動）の内容

■取組の全体像（事業スキーム）

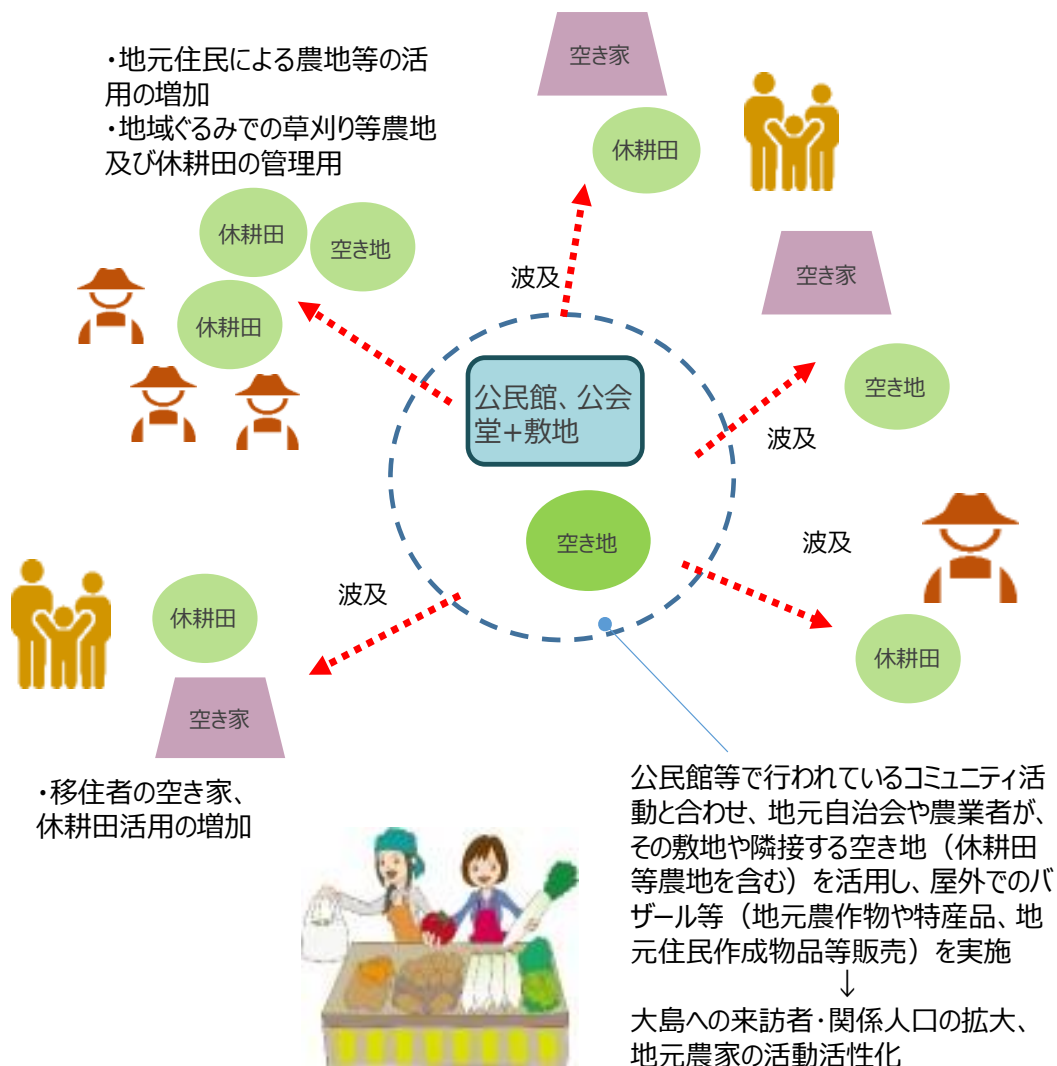
今回の取組の中で、特に検討の中心となった「低利用な地域中心部の「大島出会い公園」の活性化に資する利用と改修の提案作成」と「集落内空き地の利用方法の提案」に関して、以下の全体像を図示する。

◇低利用な地域中心部の「大島出会い公園」の活性化に資する利用と改修提案



図表 6 事業スキーム～大島出会い公園

◇空き地（休耕田を含む）をサステイナブルに推進していくための構想
“大島モデル”



図表 7 事業スキーム～集落内空き地の利用

① 空き地等調査／2022年8月4日（木）

1) 具体的な取組の内容

- ・当大島地区の北部に位置し、課題が集積している柏原集落における現地調査の実施
- ・参加者／奥村会長、福井事務局長、岡（柏原自治会長）、中井（コンサルタント）
- ・成果等／柏原集落での新たなエリアでの休耕田把握が進んだ。また、所有者へのヒアリングにより空き家利用と休耕田管理との一体的な取り組み（空き家と空き地を一体化した大島地区独自のバンク設立など）が有効であることが分かった。

2) 問題となったこと・苦労したこと

- ・数多くある空き地、休耕田等をどのように効率的に調査するか。

3) 工夫した点、特徴等

- ・早期に移住等の受け皿である休耕田物件を準備するため、活用可能性の高い物件（自治会長情報に基づいてあらかじめ概略で把握した活用の可能性が高いと思われる物件）を優先的に調査。そのために地元自治会長とともに現地調査を行う。



図表 8 空き地調査の様子

② 柏原集落説明会／2022年8月6日（土）

1) 具体的な取組の内容

- ・空き地問題が多くある柏原集落における国交省助成事業の説明
- ・参加者／奥村、福井、岡柏原自治会長・泰垣内柏原営農組合長・平尾柏原森林組合長他役員12名、中井（コンサルタント）
- ・決定事項等／助成事業に対する質疑応答・意見交換を行い、休耕田や地域の公園活用に対する理解を得た。また、休耕田や空き家の活用に関する支援制度があるとうれしいとの意見が多く出た。

2) 問題となったこと・苦勞したこと

- ・当助成事業を円滑に進めるために、初動の取り組みとしてどう地域に関わるか。

3) 工夫した点、特徴等

- ・助成期間内で効率的で効果的な一定の成果を期待して、まず地域づくりを担う地元自治会役員さんたちを中心に会合を持った（柏原集落は自治意識が高い集落であり、新たな取り組みを行うためには自治会への周知が不可欠であるため）。



図表 9 柏原集落説明会の様子

③ 出合い公園及び空き地等調査／2022年8月22日（月）

1) 具体的な取組の内容

- ・ 出合い公園及び柏原集落における空き地等調査の実施
- ・ 参加者／奥村会長、福井事務局長、猪名川町職員（地域交流課、都市政策課）3名、中井（コンサルタント）
- ・ 成果等／出合い公園調査では、猪名川と出合い公園の一体性において境界にあるフェンスが支障になっていることや、河川区域内に整備されている親水性のある整備状況について詳細に確認できた。柏原集落の空き地調査においては、まち協の拠点施設として活用を始めている空き家に接して休耕田があることがわかり、一体的な活用により地域活性化の取り組みの選択肢が豊富となった。

2) 問題となったこと・苦労したこと

- ・ 当助成事業でテーマとなっている大島地区中心部に位置する出合い公園の課題把握

3) 工夫した点、特徴等

- ・ まち協役員、町担当者、コンサルタント一緒に現地を確認し、課題を共有化した。



図表 10 出合い公園調査の様子

④ プロジェクトチーム会合・第1回/2022年9月20日(火)

1) 具体的な取組の内容

- ・会合の目的/プロジェクトチーム (PTA 役員等、地域の現役世代を中心としたメンバー構成) の初会合として国交省助成事業の申請内容の説明・質疑、当面の活動内容、他について打ち合わせを行う。
- ・参加者/奥村、福井、尾上、岡、平尾、竹内、田中、渡瀬、石見、中井 (コンサルタント)
- ・決定事項/「大島フリーマーケット」(10・9実施予定)の内容、各人のおおまかな動き方、など"・プロジェクトチームを編成するまでの人選。

2) 問題となったこと・苦勞したこと

- ・これまでの各人の地域での活動状況・能力を考慮し、今回の助成事業のテーマや内容を考え合わせて、会長以下事務局で各人にヒアリングしながら人選を行った。

3) 工夫した点、特徴等

- ・初回会合での意見交換を通して、助成事業を行う上で一定程度チームとして機能していくことが見えてきた。



図表 11 プロジェクトチーム会合の様子

⑤ 大島フリーマーケット／2022年10月9日（日）

1) 具体的な取組の内容

・内容／大島地区の中心部に位置し、清流猪名川に接している「大島出会い公園」において、当施設の多角的な利用の一環として実施。また猪名川との一体利用の可能性を探るため、利用状況を観察。

・成果等／出店数 15 件、参加者数（来客者、スタッフ等）約 200 名、売り上げ約 10 万円。なお、アンケート等は未実施であるが、当日のスタッフ等へのヒアリングでは、当イベントに対する様々な改善の余地の意見は聞かれたが、当地の多角的な活用に向けての第一歩としての好意的な意見が多くあった。

2) 問題となったこと・苦勞したこと

- ・当助成期間中に実施を行うため、農繁期や各種地元イベントが重なる中での開催日の設定。
- ・公園管理者である町との対応。

3) 工夫した点、特徴等

・開催までの時間がない中で、出店可能性ある団体、個人に直接に事務局からお声掛けし 15 店の出店にこぎつけた。

・若い層や子供たちの参加もあり、特に猪名川沿いでの子供たちの生き生きした“遊び方“を観察することができ、河川公園としての充実を図る必要性を感じることができた。”



図表 12 大島フリーマーケットの様子

⑥ プロジェクトチーム会合・第2回／2022年10月17日（月）

1) 具体的な取組の内容

・内容／10月9日実施の大島フリーマーケットの総括と出会い公園での今後の生かし方を検討。その他、空き地農地の活用、管理方法や集落内の空き地活用について情報交換、意見交換を実施。

・参加者／奥村、福井、尾上、岡、平尾、田中、渡瀬、石見、中井（コンサルタント）

・決定事項等／大島出会い公園への定期的、継続的なバザール等の実施に向けた検討が有効であることが確認され、今後継続して当公園の利活用について検討して行くこととした。

2) 問題となったこと・苦労したこと

・出会い公園利用に際して今回何とか実現にこぎつけたが、今後の利用に際しては行政ハードルを認識して実施していくことが必要であることがわかった。

3) 工夫した点、特徴等

・今回のテーマに対する今後の取り組み内容に関して「当面の課題」と「将来的な課題」を意識してメンバーに考えてもらうことによって、よりの確に今年度の活動展開ができるように工夫した。

⑦ プロジェクトチーム会合・第3回／2022年11月8日（火）

1) 具体的な取組の内容

・内容／国交省中間報告会参加者からの報告が行われるとともに、委員の先生方で関心が高かった出会い公園の多様な利用方法と、所有者不明土地に関する法人化を課題として議論が行われた。また、休耕田活用や管理に関して意見交換と対策の検討が行われた。

・参加者／奥村、福井、岡、平尾、田中、竹内、石見、中井（コンサルタント）

・決定事項等／出会い公園に関しては、多様な利用に向けて専門家の支援も得ながら構想を作成していくこととした。休耕田の利用や管理に関しては、集落や地域全体での取り組み、助け合いが必要であるとの意見がいくつか出され、今後休耕田の維持・活用方策を立案していくヒントを得ることができた。

2) 問題となったこと・苦労したこと

・出会い公園は現状で球技等も行われるとのことから、河川と公園の一体化に支障となっているフェンスが容易に外せないことがわかった。

3) 工夫した点、特徴等

・昨年からまち協で継続して移住施策に取り組んでいるが、近年大島地区に移住してきた方々へのヒアリング結果から地域の重要性が改めて認識したことで、休耕田や空き地の活用・管理についても地域ぐるみの方向性が強く打ち出されることとなった。

⑧ 空き土地等調査／2022年12月1日（木）、5日（月）、8日（木）

1) 具体的な取組の内容

- ・内容／休耕田等の管理実態に関する調査（現地調査、地元営農組合へのヒアリング、及び中山間地域交付金に関する資料等の分析など）
- ・参加者／田中、泰垣内、中井（コンサルタント）
- ・成果等／プロジェクトメンバー、地元農業者、コンサルタントにより、柏原地区での空き地の実態～ほ場整備で生み出された大規模法面管理の実態、ほ場整備以外の伝統的な棚田における管理実態、等～がほぼ明確となった。

2) 問題となったこと・苦勞したこと

- ・ほ場整備エリア以外の休耕田は営農組合の管轄外であるため、休耕田の位置や所有者の把握に関して課題が残った。

3) 工夫した点、特徴等

- ・大規模な法面作業が危険であり今後どのように管理していくことがテーマとなっていたが、営農組合へのヒアリングの中で中山間地域交付金に関する資料分析が有効であることが判明し（ほ場整備によって生じた法面の草刈り等の作業難易度がある）、最も難易度の高い箇所での管理作業を今後どう地域で行っていくかといった課題が鮮明となった。



図表 13 空き土地調査の様子



| 調査地区 | 集落名 | 面積 | 農地面積 | 交付金 | 基本法面面積 | 備考 |
|-------|-----|---------|-----------|---------|--------|-------------------|
| 地区-1 | 集落別 | 17,200 | 1,400,000 | 2 | | |
| | 集落別 | | | | | |
| 地区-2 | 集落別 | 14,810 | 1,110,000 | | | 1/21 |
| | 集落別 | | | | | |
| 地区-3 | 集落別 | 13,720 | 1,010,000 | | | 1/24 |
| | 集落別 | | | | | |
| 地区-4 | 集落別 | 12,710 | 884,000 | ○ | | 1/20 |
| | 集落別 | | | | | |
| 地区-5 | 集落別 | 3,810 | 198,000 | ○ | | 1/2 |
| | 集落別 | | | | | |
| 地区-6 | 集落別 | 8,110 | 116,100 | ○ | | 1/2 |
| | 集落別 | | | | | |
| 地区-7 | 集落別 | 1,710 | 111,100 | ○ | | 1/2 |
| | 集落別 | | | | | |
| 地区-8 | 集落別 | 11,140 | 691,000 | ○ | | 1/20 |
| | 集落別 | | | | | |
| 地区-9 | 集落別 | 3,200 | 201,000 | | | 1/20 |
| | 集落別 | 870 | 0 | | | 交付金無し |
| 地区-10 | 集落別 | 10,480 | 219,000 | | | 1/21 |
| | 集落別 | | | | | |
| 地区-11 | 集落別 | 4,310 | 81,100 | | | 1/21 |
| | 集落別 | | | | | |
| 地区-12 | 集落別 | 3,450 | 111,000 | | | 1/21 |
| | 集落別 | | | | | |
| 地区-13 | 集落別 | 1,140 | 11,100 | | | 1/20 |
| | 集落別 | | | | | |
| 合 計 | 集落別 | 101,200 | 4,400,000 | | | |
| | 集落別 | 1,000 | 11,100 | | | 交付金のうち 調査対象外面積 |
| 集落別 | 0 | 0 | | | | |
| 集 計 | | 102,200 | 4,411,100 | 115,817 | | 691,140 |

図表 14 中山間地域交付金資料

⑨ プロジェクトチーム会合・第4回／2022年12月11日（日）

1) 具体的な取組の内容

- ・会合の目的／出会い公園活用構想、集落内空き地の活用、及び休耕田等の管理方法に関する基本的な方針についての意見交換。不法土地に関する検討。
- ・参加者／奥村、福井、平尾、田中、尾上、渡瀬、竹内、石見、中井（コンサルタント）
- ・決定事項等／出会い公園に関しては、南側に位置する小学校グラウンドとの機能分担を行い（球技類は小学校グラウンドに集約）、低いフェンスに変更して猪名川との連続性や開放性に考慮しまちに賑わいをより生み出せるようリニューアルを行うこととした。集落内空き地の活用に関しては、11箇所の自治会公民館等と連続した空地（敷地）を活用し、地域のコミュニティ活動と一体となった活用を目指すこととした。休耕田等の管理に関しては、危険な法面の管理において草刈り等を安全に行えるような機械の導入及び扱い方の研修を行って、地域ぐるみで行っていくこととした。不法土地対策に関しては、多角的に検討した結果、資料把握とこれまでの対策に力点を置くこととした。

2) 問題となったこと・苦労したこと

- ・不法投棄土地対策に関しては、これまでの経緯（地元の対策や行政の動き、不法投棄を行っている業者の動きなど）を踏まえ、現プロジェクトチームのマンパワーを総合的に勘案すると、今年度では解決の方向が見えづらいことが判明した。

3) 工夫した点、特徴等

- ・これまでの調査やプロジェクトチームでの意見交換、関係者での事前ヒアリング、さらには公園設計の専門家の意見を踏まえたコンサルタントからの今回のテーマに関する方針についてたたき台が示されることによって、一定の方向性を示すことができた。



図表 15 大きな法面の草刈り作業の様子（農研機構資料より）

⑩ プロジェクトチーム会合・第5回／2023年1月11日（水）

1) 具体的な取組の内容

・会合の目的／出会い公園活用構想及び集落内空き地活用の具体的な提案に関する意見交換、所有者不明土地等に関する法人化設立の方針案に関する意見交換、他

・参加者／奥村、平尾、田中、尾上、渡瀬、竹内、石見、中井（コンサルタント）

・決定事項等／出会い公園構想に関しては、新たに猪名川沿いで地域と小学校で専門家を交えた環境学習の取り組みの要望があることが分かり、これを具体化して構想に盛り込んでいくこととした。集落内空き地活用に関しては、具体的に柏原と清水自治会で前回述べた方向で検討することとし、具体的な取り組み内容や今後継続的に空き地利用が進んでいくサステイナブルなモデルの方針を示すことができた。所有者不明土地等に関する法人化設立に関しては、まち協そのものを法人化してその中の一部のチームとして取り組んでいく方向を確認した。

2) 問題となったこと・苦労したこと

・大規模法面管理における機械を使った研修に関しては段取りが整わず研修実施のめどが立っていない。

3) 工夫した点、特徴等

・特に集落内空き地活用に関して、当助成事業と並行して昨年度から継続的に取り組まれている県助成事業による移住促進や地域活性化の取り組みと関連させることで、地域にとってはより現実的で効率的な方針とすることができた（空き地活用における観光客や移住者の参加、その連鎖的な増加のしくみなど）。

⑪ プロジェクトチーム会合・第6回／1月30日（月）

1) 具体的な取組の内容

・会合の目的／出会い公園活用構想及び集落内空き地活用モデルに関する意見交換、他

・参加者／奥村、平尾、田中、渡瀬、竹内、石見、中井（コンサルタント）

・決定事項等／出会い公園構想に関しては、公園から猪名川につづく水辺での環境学習の場として、できる限り河川環境を変えないで安全に活用できるような具体的な対策を具体化することとした。集落内空き地活用モデルに関しては、柏原公民館は月1回の「サロンあじさい」や週1回の体操などの活用が行われており、施設や周辺景観も魅力的であるため、今後積極的に大野山の観光客等をターゲットとしたバザールなどを具体化していくこととした。

2) 問題となったこと・苦労したこと

・出会い公園改修に関しては今回は地元の方針提示までであり、行政（町建設課や県宝塚土木事務所、他）今後の協議が残る。

3) 工夫した点、特徴等

・出会い公園と連続する猪名川での環境学習の取り組みのイメージが、これまでの地域での

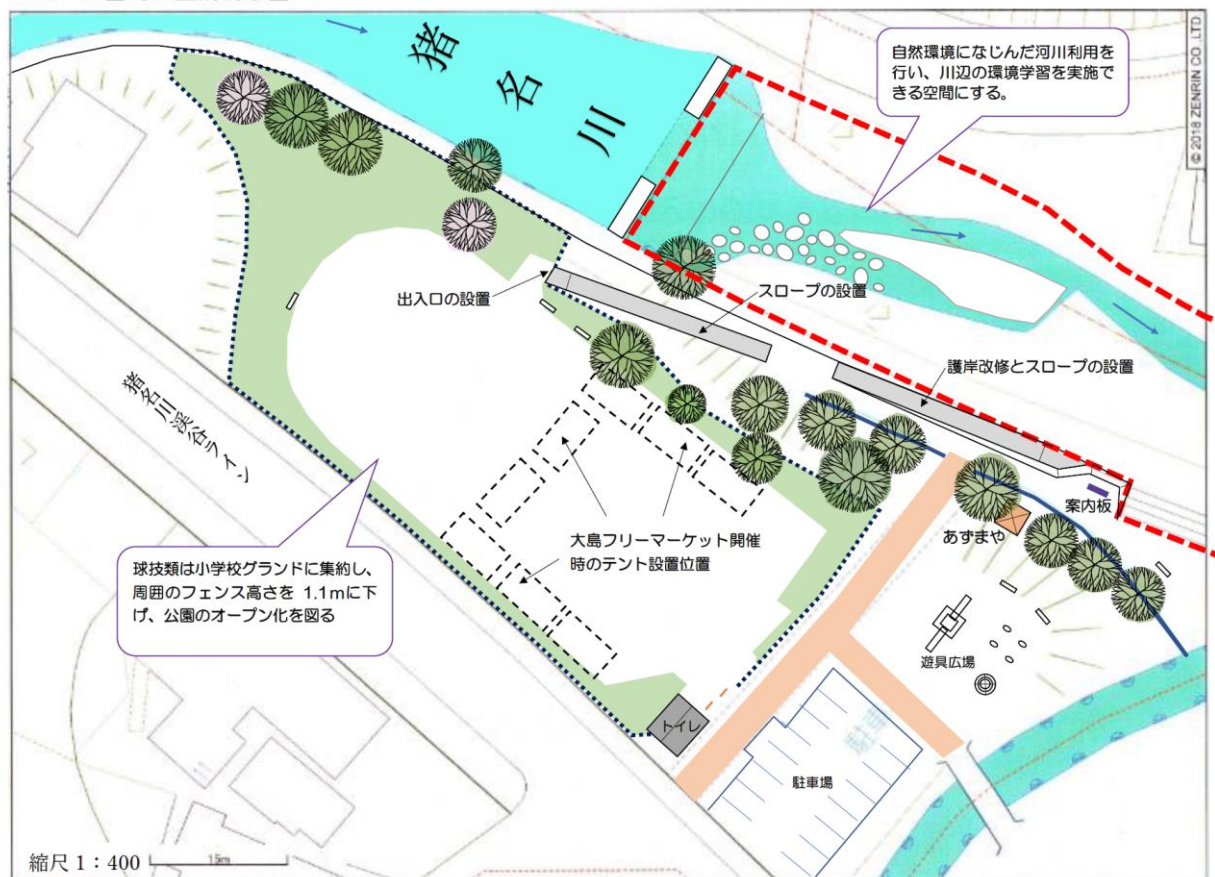
話し合い等が会合でより具体的に決められたことでハード的なイメージが鮮明となった。

⑫ プロジェクトチーム会合・第7回／2月22日（水）

1) 具体的な取組の内容

- ・ 会合の目的／出会い公園活用の具体案及び集落内空き地活用モデルにもとづく実現化案についての意見交換、所有者不明土地等に関する法人化設立の具体案に関する意見交換、他
- ・ 参加者／奥村、岡、平尾、田中、渡瀬、竹内、尾上、石見、中井（コンサルタント）
- ・ 決定事項等／出会い公園活用の具体案に関しては、前回の会合に基づき利用方法や改修に関してイメージを共有化した。所有者不明土地等に関する法人化設立に関しては、この課題に対する前回の方向性を確認し、早期に法人設立に向けた取り組みを行っていくことを話し合った。
- ・ 会合の結果としてまとめた大島出会い公園の利用や改修に向けた構想案は以下の通り。

出会い公園周辺整備構想図



図表 16 大島出会い公園改修構想案

⑬ 空き土地等調査／2月24日（金）

1) 具体的な取組の内容

- ・内容／休耕田等の管理実態に関する調査（地元農会へのヒアリング、他）
- ・参加者／平尾、中井（コンサルタント）
- ・成果等／柏原エリアの農業実態に関して明らかになったとともに、現在大島地区全体で進められている移住推進の取組と休耕田の活用がセットで進められるように、今後新たな体制で進めていくことが適切であることが確認された。

2) 問題となったこと・苦労したこと

- ・少子高齢化、人口流出が顕著に継続して進行している中で、後継者問題が改めて課題として浮かび上がった。上記に述べた新たな体制づくりにおいても地元農業者だけでは難しくこれをサポートする体制、仕組みが欠かせないことが改めて確認された。

(6) 取組内容のまとめ

～本取組で得られた成果・知見と、取組上で生じた課題～

今回の取組でのまとめは以下のとおりとする。

| 当初掲げていた取組目標 | 本取組で得られた成果・知見 | 取組上で生じた課題 |
|---|---|---|
| <p>■低利用な地域中心部の「大島出会い公園」の活性化に資する利用と改修の提案作成</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・まち協のリーダーシップによって早期にフリーマーケットの実施ができたことで、これの総括を踏まえたその後の公園及び猪名川に接する箇所を検討が多角的にできるようになった。 ・来年度以降の当公園でのイベント計画を立案することができた。 ・公園設計の専門家の助言を踏まえたコンサルタントの提案によって、実現性のある方針を立てることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今回はプロジェクトチームの改修提案を作成することまでであり、行政との協議は今後の課題として残った。 |
| <p>■集落内空き地の利用方法の提案</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・11集落すべてを対象とせず、モデル的な集落に関して集中して協議したことで、実現性があり空き地を連鎖的に活用できるモデル案を作成することができた。 ・プロジェクトチームに今回のテーマに沿った形で自治会長や農会長、PTA 会長など地域活動に携わる方々が参加したことで、的確と思われる提案を行うことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・左記の成果とは相反する内容であるが、11集落全体の活用提案までには至らず、今後より組織的な広がりや強化が必要なことが分かった。 |
| <p>■サスティナブルな農業経営に資する危険法面等の管理方法を見出す</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・取組目標に掲げた課題が最も大きい柏原集落で10数名の役員が参加した話し合いや、営農組合長、農会長、自治会長との協議を実施し、実態を詳細に把握できたことで、効果的な案を見出すことができた。 ・協議の過程で当初想定していなかった中山間地域交付金に関する資料が有効的なことや、大規模な法面管理に関して機械導入の可能性があると判明し、今後の地域ぐるみの管理を推進していく展望を築くことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・休耕田の把握に関して、昨年度より「猪名川町農地バンク」が運用されたことから行政と連携して推進する予定であったが、情報の入手が容易でないことが判明し、相当の時間を要することとなった(期間内に柏原集落に関して把握予定)。 |
| <p>■不法投棄土地解消に向けた取り組みの推進</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの地域での対応記録の整理を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・検討を進めていくと応募時点で考えていたが実際に期間内で進めていくことが難しいことが判明し、中長期的な視点での対応が必要なが分かった。 |

(7) 今後の取組予定・見通し

上記のまとめをふまえ、今後の取組みは以下のとおりである。

●「大島出会い公園」でのイベントの実施

…当面の計画として、6月に「いながわ里山猪道トレイルラン」での出発到着地として活用することを予定しているが、このイベントと合わせて今回実験的に実施したフリーマーケットの経験を生かしたにぎわいをもたらす内容を行うことを検討する。

●「大島出会い公園」及び猪名川の活用案に関する行政及び地元との協議

…今回の取組で課題として残った改修提案に関する行政との協議を今後実施していくとともに、上記イベントの実施や猪名川での環境学習など関係者との協議を行っていきながら実施していく予定である。

●柏原集落でのモデル案に沿った取り組みの推進

…今回の取組で柏原集落をモデルとして公民館とその敷地や近接する空き地でのバザールなどの取組を実践し、空き地をサステイナブル（連鎖的）に活用していく“大島モデル”実現の先鞭をつけていく。

●休耕田の活用推進や大規模法面管理等をトータルに進めるための農業者会の設立

…柏原集落において、既存の農業者の組織を母体として新たに上記を行うための組織を結成して実践していく。

●所者不明土地等に関する法人の設立に関して

…当協議会が地域活性化を担うべく活動を展開し、収益事業も充実させていながら、推進法人の指定を見据えた協議会の法人化（現時点では一般社団法人が妥当）をめざす。法人化後は、空き地を扱うチームを組織の一セクションとして設置する（本チームは、今回のモデル事業で重要な役割を果たしたプロジェクトチームメンバーをベースにすることを想定）。